



第43号

平成24年3月15日

**JASWHS** 公益社団法人 日本医療社会福祉協会  
Japanese Association of Social Workers in Health Services

## 東日本大震災 MSW災害支援ニュース



群馬県赤城山の大沼

### 目次

1. 災害対策本部からのお知らせ
2. 災害対策本部会議の報告
3. 災害支援報告書①②③④⑤
4. 現地感想文

\*事務所感想文は今回お休みします。

## 災害対策本部からのお知らせ

### 現地・事務所協力員募集！！

引き続き、現地・事務所協力員を募集しています。  
特に現地は、今月・来月共に人員が不足しています。  
今さら参加してもいいのかな」と迷っている方いませんか？  
遅すぎることはありません。まさに「今」必要とされています！  
初めての方もぜひご協力をお願いいたします。

### 現地・事務所職員募集！！

現担当者の任期満了にあたり、下記の職員を募集します。  
災害支援に関心のある方からのご応募をお待ちしております。  
または周りでご興味のある方がいらっしゃいましたら、ぜひご紹介下さい。

- |                          |                              |
|--------------------------|------------------------------|
| (1) 現地常駐者（短期契約職員） 2名     | (2) 災害対策本部事務所担当（パート職員）1名     |
| ・就業場所：宮城県石巻市大街道北         | ・就業場所：協会事務局内                 |
| ・就業時間：9～17時              | ・就業時間：週4日程度 10～17時           |
| ・休日：土曜・日曜・祝日・年末年始        | ・休日：土曜・日曜・祝日・年末年始            |
| ・基本給 250,000円/月 通勤費は実費支給 | ・時給 900円～ 通勤費は実費支給           |
| ・社会保険加入                  | ・経験不問、医療ソーシャルワーカー業務<br>経験者優遇 |
| ・医療ソーシャルワーカー業務経験必須       | ・4月より勤務開始希望                  |
| ・4月より勤務開始希望              |                              |

**\*業務の都合等により残業や休日出勤となることがあります。**

ご応募の方は下記宛に履歴書をお送り下さい。面接にて決定させていただきます。  
または災害対策本部までお気軽にお問い合わせ下さい。

〒162-0065 東京都新宿区住吉町 8-20 四谷チンゴビル  
TEL：03-5366-1057 担当：笹岡・中川・一原

### 経費の精算について

今年度、現地や災害対策本部事務所の活動にご参加下さった皆様、交通費など経費の精算はお済み  
ですか？

**年度をまたぐと支給できません**ので、お済みでない方は、至急、手続きをお願いいたします！  
所定の用紙（\*）にご記入いただき、領収証・レシートを添付の上、下記までご郵送下さい。

（\*）[http://www.jaswhs.or.jp/upload/Img\\_Doc/11\\_Img\\_Doc.doc](http://www.jaswhs.or.jp/upload/Img_Doc/11_Img_Doc.doc)

〒162-0065 東京都新宿区住吉町 8-20 四谷チンゴビル 2F  
日本医療社会福祉協会 中川宛

## 他団体研修情報

(1) ソーシャルケアサービス従事者研究協議会シンポジウム

3.11 東日本大震災に学び、復興支援を考える集い  
～災害とソーシャルケア 被災者の目線から支援の方法を考える～

日時 3月25日(日) 10:00～17:00

午前 基調報告、各団体活動報告

午後 シンポジウム

会場 文京学院大学 本郷キャンパス 東京都文京区向岡 1-19-1

## 活動記録を出版します！

出版名：『東日本大震災 医療ソーシャルワーカーの支援のバトン 1』（仮）

■この度の当協会の災害支援活動をフェーズ毎にまとめ、会員や関係者に報告するとともに、今後の災害発生時に役立つ資料として残すことを目的とします。群馬大会での販売（数百円）を目指します。

■出版形態：自費出版

■冊数：500～1000冊

■サイズ：A5、100ページ程度、横書き

■基本方針

・なるべく既存の記録・報告書を活用して編集します。

どうしても必要な部分のみ、適任者に執筆を依頼します。

・まずは初動から遊楽館閉鎖の9月30日までの記録を出版します。

10月以降の記録も、「2」「3」と続けて出版していきます。

・月ごとに、①遊楽館 ②仙台 ③大槌町 ④事務所 ⑤本部長の動き、に分けてまとめます。

・巻末に各種資料も縮小してなるべく掲載します。（写真・協力員一覧・協会として発表した資料）

◎編集作業にご協力いただける方、災害対策本部までご連絡ください。

◎活動にご参加いただいた方のお名前・ご所属・都道府県を掲載させていただく予定です。また、本部に提出していただいた活動報告書や写真を使用させていただくことがあります。いずれも事前に掲載可否をお尋ねしますが、ご協力をよろしくお願いいたします。

## Facebookでも情報をお伝えしています！

この度、災害対策本部のFacebookページができ、およそ2日に1回の頻度で、現地や災害対策本部の日々の様子をお伝えしています。

Facebookのアカウントをお持ちでない方もご覧いただけます。

お持ちの方は、「いいね！」やコメントを寄せいただけるとうれしいです。

-Facebook URL-

<http://ja-jp.facebook.com/pages/公社日本医療社会福祉協会-災害対策本部/156327867812970>

# 第3回 災害対策本部会議の報告

2012.3.2(金) 19:00～

日本医療社会福祉協会 会議室

(敬称略・順不同)

**出席** 佐原(本部長)・山田(元現地責任者)・梅崎(助成金研究担当)・取出(事務所責任者)・東(事務所担当)・佐藤(元現地担当者)・一原(事務所担当)

**欠席** 笹岡(副本部長)・坪田(理事)・武山(現地責任者)・飯島(理事)・小淵(ニュースレター担当)

## 1. 前回理事会の報告(佐原会長より)

災害対策本部より理事会に検討を依頼した事項は、基本的に全て承認されました。

- 事務所の体制：4月以降、週4日の体制に切り替えます
- 報告会の持ち方：東京のみでは参加できるSWに限られるため、今後2～3カ月に1回、各地域で県協会主催または災害対策本部と共催にて開催します。
- 現地活動員の募集：大学院の研究者にも向けて募集を行います。
- 活動記録の出版：群馬大会に間に合うよう作成します。

会員からのご意見「日本協会としての災害支援対策への取り組み」については、社会活動部で災害マニュアルを作成することが決まっています。会員の意見をくみ上げながら、災害対策本部も協力して作っていくこととなります。

## 2. 広報活動について

### (1) ホームページ

- 古い情報は近日中に更新し、佐原会長からの「震災から1年にあたってのメッセージ」を掲載します。

### (2) 災害支援ニュース

- 奥まで入っていないと読めないという問題あり。ホームページを開いた時、一番に(又は同時に)開かれるようにならないか、業者さんに相談します。

### (3) Facebook

- 日本協会のFacebookに統合するという方法も考えられますが、災害対策本部のページだからこそつながる人もいることを考え、当面は分けて運営していきます。また災害支援ニュースとは取って内容を重複させます。対象を分けて考えます(ホームページ→会員・SWに向けて/Facebook→会員・SWに限らず広く国民に向けて)

## 3. 事務所の活動について

### (1) 現状の報告

- ・災害支援SW報告会の地方開催について

目的は地方の会員にも現地活動に参加していただくことです。まずは都道府県協会単位で活動に参加した地域に働きかけていきます。基本的には都道府県協会主催で災害対策本部が協力します。本部メンバーの派遣は、その時の本部や現地の状況、開催地域の状況に合わせて決定します。次回は3/13(火)大阪協会とジョイントで開催予定ですが、本部メンバーの派遣は日程的にも難しいため、活動に関するパワーポイント等の資料を提供します。

## 2) 課題

### ① 来年度の人員体制

**現地** 現責任者は3月までの予定

- まずは、可能性のある方に直接掛け合う、ハローワークや大学に求人を出す、等の方法を取ります。
- 募集チラシには待遇を詳細に書き、次回4月の協会ニュースにまた同封します
- HPの求人情報にもう一度載せます。求人ページ以外にも目につくように複数載せます。
- 定員は最大2名、任期は最長1年とします。

**事務所** パート職員(週4日)の募集必要(初台リハからの派遣は3月末終了。一原は5月末で退職)

- まずは、可能性のある方に直接掛け合います。
- 取出さんは事務所責任者を今月で終了し、東さんに引き継ぎ予定です。

②災害対策本部会議の頻度：現地にとっても月1回は必要と思われるため、日にちを確保していきます。

③チーム医療推進協議会：災害の冊子が完成。関係者に分配し、180円/冊で販売します。

## 4. 現地の活動について

### (1) 仮設支援

**現地より** 支援員、班長(自治会長)、鍵持ちさんから、必要時直接相談が入る団地を増やしています。

(現在18団地) また掲示板への告知、チラシの活用で利用につながる様、各団地に働きかけを広げています。現在情報収集は「仮設サロン連絡会」を利用。

- 相談会で使用する旗や胸につけるワッペン、仮設住宅の掲示板に貼る「医療ソーシャルワーカーのご案内」ポスターをパウチして作成予定です。
- 孤立予防、コミュニティ形成とも、支援員、民生委員、区長、町会などとの連携で進める必要があります。各地域により様相が違うので、容量から考えると範囲を決めざるをえません。現在の範囲での活動で良いのか、広域に広報すべきか、行政とも相談していきたいと思います。
- 取り残されている小規模な仮設にこそ入っていかなければなりません、範囲を広げるならどこかを削らなければなりません。それが現実的でなければ今やっているところで当面続けていくのはやむを得ない状況です。

### (2) 在宅被災者

**現地より** 調査後フォロー担当件数も落ち着いてきています。訪問も無理のない程度しています。全体の動きの中で、取り組みの度を調整していますが、住民、協議会共、MSWへの要求は高いと思われます。(中里サポートセンターへの常駐により可能と思われる)

- スクリーニング調査後、MSWに振り分けられるフォロー件数が膨大のため、祐ホームクリニックでケアマネ経験者を雇用しました。その結果、MSWに振り分けられるケースは毎週50件程です。
- 人材不足・業務過多への対応策として、現地にいなくてもフォロー電話をして分担できるようにクラウドIDを2つ取得しました。但し、現地では件数が落ち着いてきたとのことなので、当面様子を見ます。
- 当協会でも研究体制を整えていきます。現在の体制では、研究よりも支援の質を上げることこそ重要との考え方もありますが、いずれにせよ現体制ではやりきれず、現地責任者のサポートとしても別の要員が必要ですので、大学の研究者に向けて働きかけていきます。またこの事業には若手のスピードが必要とされますがそれをバックアップする人も必要。週1日でもこちらから行ってカバーできるよう、今月中は梅崎さんが協力します。
- 個人情報の取り扱いについてのルールが必要です。ルールを作成して、それを参加者に、現地に行く前と現地に入ってから読んでもらえるように徹底します。

### (3) 現地会員・SW 支援

- 石巻医療圏 MSW ネットワークとの連携・支援をしていきます。次回会議の開催予定を確認します。

### (4) 他団体との連携（地元の方やボランティア団体による市民活動への協力）

- カラオケ教室（区長・支援コーディネーター等と仮設居住者）、若者ファッションイベント等に協力しています。
- 鴨川少年少女合唱団講演へは「後援」とします。

### (5) 3. 1 1の追悼集会（県・市）

- 宮城県へは追悼のメッセージを送り、石巻市の追悼式には、理事2名が参加します。

### (6) 事業の優先性

#### 現在の事業概要

- ①仮設住宅（孤独死防止・自治組織化）
- ②在宅被災者（石巻医療圏健康・生活復興協議会（RCI）事業）
- ③現地会員・SW 支援
- ④石巻市地域活動：市民活動/ボランティア団体との共同事業

- どの事業も重要ですが、現地在活動を展開していくために本部で優先順位をつける必要があるとしたら、特に①～③を重要と考えます。
- 事業や会議の枠組みが参加者にはわかりづらいため、図解した紙を作成して伝えていきます。

### (7) 宿舎機能と事務所機能の区分

- 次の現地責任者に交替した時点で、現本部を主に生活拠点、中里の在宅避難世帯サポートセンター内に事務所機能を移転していく方針です。

### (8) 現地で使用している車と電話

- あおぞら診療所・山梨六斎の会からお借りしている車がどちらも車検が近づいているため先方に相談します。
- Softbank 携帯の無償貸与は3月31日で終了しますが、改めて交渉します。

## 5. 学会発表・研修など

- (1) 3月25日(日) ソーシャルケア従事者研究会
- (2) 5月24日(木)～26日(土) 群馬大会
- (3) 5月27日(日) 群馬で開催の研修
  - 「災害直後に必要な法的知識と支援の可能性」「災害救助法について」等を検討中

## 6. 活動記録の出版について

- 企画案を作りました（事務局からのお知らせを参照）

## 7. 次回予定

- 4月、メンバーの都合のあう日で決定します。

◎本会議で検討した事項は、今後理事などの承認を得て、協会としての合意を確認します。

## 現地支援活動報告①

谷岡 美穂（自宅）

期間：2月10日～2月29日

4000世帯。石巻医療圏健康・生活復興協議会の推計した在宅避難世帯の推計です。現在調査が行われている世帯の内、フォローが必要となる世帯が約2割強。その600件を超える要フォロー件数の内、専門職としてソーシャルワーカーの関わりが必要となる世帯が実に76%、450件を超えています。電話にて状況を伺い、情報提供や連携機関へつないだり、必要な場合は訪問しての面談を行っています。

家族・仕事・住む場所・通った学校・見慣れた風景、大切なものが損なわれ、懐かしい光景は心の中にしまわれ、目の前にある毎日を進む。被災し自宅で生活を続けている人達に対し、訪問調査の情報をもとに、どんなことが課題かを予測し、電話をかけてお話を伺います。病院に通院できずにいる人、不眠で眠れない人、亡くなった家族の一周忌の準備をしている人、仮設にいる家族を支えている人、連絡をすると、ケアマネジャーがついていたり、通院していて相談できる環境があったりと、一回の連絡で終結となる方が多いです。

しかし終結とならない方もいます。継続となった方達は、私たちが話を聞くことを通して、関わりが必要だと判断する方達です。普段から様々な方の人生に触れ、生活を支える視点を意識しているソーシャルワーカーが聞けること、気づくこと、つなげられることがあるのではないかと感じています。「大丈夫」と言われる人たちの中で、「大丈夫ではない」状況にある人達がいることを知り、できるサポートをする。どこにいてもソーシャルワーカーとして求められていることは同じなのではないかと思えます。今日職場で行っていることが、被災地の人たちのために役立ちます。めまぐるしく変化する石巻の中で、今だからできることがあります。

多くの素敵なソーシャルワーカーさんと出会え、被災者の方達と過ごせたことを、心から嬉しく思います。優しく、美味しい石巻にまた来たいと思います。

毎晩遅くまでパソコンに向き合う多忙な中、被災地域を案内したり、話す時間をとって下さり「次の災害が起こった時にもこうして仲間がいれば助けあえるでしょう」と私達のつながりと成長を支えて下さった武山さん。本当にありがとうございました。

迷っている時間を集めて石巻で話を聞けば、もしかしたら一人の人の心が軽くなるかもしれません。介護保険サービスを受けられるかもしれません。石巻で悩んだっていいと思います。

## 現地支援活動報告②

西山 充子（大阪府 済生会吹田病院）

期間：3月2日～3月4日

在宅避難者や仮設住宅入居者のケース検討会議への参加や中高生対象のフリーマーケットのお手伝い、また津波被害に遭われた地区へ連れて行っていただいたりして、あっという間の3日間でした。フリーマーケットは現地の高校生の「服がない」という声から企画されたそうですが、東京からモデルやスタイリストが来られブランドの服や小物を500～1500円で提供するというものでした。スタッフも若い人が多く、とても熱気のある会場でした。その活動の中で同世代の現地ボランティアの方とつながりができたこと、若いからできることもあるとわかったことは私にとって大きな収穫でした。

被災地に実際に行ってそこに住んでいる人から直接話を聞いたり、そこで行われている活動を自分で見て感じることで、私はやっと今回の地震が現実と同じ日本で起こったということを理解することができました。現地のボランティアの方ともつながりができ、今後も機会があれば復興のお手伝いを続けていきたいと思っています。このような貴重な経験をさせていただいたことに感謝いたします。ありがとうございました。

参加を検討されているのであれば、是非、参加して現地の現状を感じていただきたいと思います。津波の恐ろしさと復興させようと頑張っている現地の熱気は、言葉では表すことができないものがあります。私は行ってみて自分の中で今回の震災の認識が変わり、被災地に対してより関心が高まるきっかけとなりました。行って様々なことを感じていただきたいです。

## 現地支援活動報告③

協力員 期間：3月5日～3月9日

仮設住宅で開催される入居者の茶話会に参加した。震災からあと5日で1年という事もあってか、皆さま自分からどのような体験をされたか振り返りつつお話をされていた。どのお話も非常に衝撃的であり、ブラウン管や新聞からは伝わってこない臨場さであった。石巻港エリアにお住まいだった方から、家がさらわれる様子や震災直後の動揺した状況を伺い、その衝撃的な内容に、お話を伺いつつ涙を堪えるのに集中するのが大変だった。相談を受ける立場なのにも関わらず、泣いてしまってはプロではない……。

2件の仮設住宅訪問終了後は、石巻港周辺を見学した。本日の茶話会のメンバーであり、石巻湾から約400mの距離の石巻市立病院は廃墟と化している。約1km離れた門脇小学校、その辺り一面はまるで海まで見えそうな見通しの良さで、まるで一面空襲を受けた後のようである。

散歩をしている人が見える。かつてこの地区に住んでいた人だろうか。他の先輩ソーシャルワーカーの方と、いつかこの土地が復興しどんな街が立つのだろうか、と想像した。

私が東京に帰っても、この土地で震災から立ち直ろうと前に進んでいる石巻の方々がいることを心に思い、日々を過ごしたいと強く思った。

より被災地の皆さんの気持ちに寄り添う手助けになると思います。先輩方の助けが手厚く、非常に価値のあるボランティアになりました。

## 現地支援活動報告④

石田 潔（北海道 小樽脳・循環器病院）

期間：3月8日～3月11日

被災された方々の印象は、一年が経過した今、被災当初はギリギリの所で保っていた緊張の糸が解け、先の見えないトンネルの中にいるような、漫然とした不安感に支配されているような様子でした。現在の日本協会の活動は、クラウドにアップされたアセスメント結果から、医療ソーシャルワーカーによるフォローが必要と思われる、「要フォロー者」に対する電話・訪問による連絡業務でした。私は、主に固定電話や携帯電話をお持ちでない要フォロー者に対する訪問をさせて頂きました。3.11を前に、被災された方々が抱える様々な思いを傾聴させて頂き、真の復興への道のりは険しいものであることを、否応なしに実感させられました。震災で失業したが、周囲で就職が決まってく中、自分だけ取り残されていると感じ、酒量が増え家族に辛くあたる夫。連日放送される津波の映像を見て、子供の体調が悪くなり、一家団欒でテレビを囲めなくなった家族。私は、昨年6月にも避難所への支援に参加させて頂きましたが、その時に見た被災地の景色が脳裏に焼きついており、今回の支援では、津波の深い爪痕が目に飛び込んでくる度、またテレビ等で津波の映像を見る度に6月の景色・匂い・感じた気持ちが思い返され、気分が悪くなるのが何度かありました。己のメンタルの弱さを恥ずかしく思います。しかし、地元の方々は、想像を絶する体験をされ、生々しい光景の中で1年間も日常的に生活を送られています。数日支援にあたった私がこのような状況ですので、地元の方々のストレスは計り知れないものがあります。被災された方々の様々な思いを伺い、必要な資源へバトンを繋いでいくことの重要性と、我々ソーシャルワーカーが被災地にいる意味を再確認させて頂く機会となりました。寄り添い、繋ぐ。我々ソーシャルワーカーの支援は、ここからが正念場ではないかと、強く感じました。

## 現地支援活動報告⑤

田中 賢司（自宅）

期間：3月10日～3月11日

石巻を訪れるのは年末に続き2回目、被災地はゴールデンウィークに大船渡、陸前高田に行っているのが3回目となりました。最初は被災地に行って気分の高揚、使命感を感じながら帰ってきました。年末はワーカーとして病院職員の専門性を意識し、足りないスキルが明確となりました。今回はMSWの視点、意図的な関わり、電話で発言する「ことば」に何らかの意味があるのではと現地を訪れました。クラウドを使用し、スキルの高い全国から来た仲間と電話相談をする中で、意図的な関わり、ケースに臨む前の事前準備、ワーカーとして想定している展開など考えながら行いました。一期一会の言葉のやりとりを行う為に、タイミングと適切な言葉を選択しなければならないのです。普段以上に緊張して電話をしていました。年末に訪れた時、同僚のワーカーから「行く意味があったか？」と質問されると「自分の立ち位置が明確となった」と答えていました。今回は、答えがありません。只、発災からちょうど1年目、同時刻、被災地で迎えたかったです。皆さんはどこで誰と迎えましたか？私が選択したのは、あえて子供たちと一緒にいないことで、家族として非日常を演出し、子供たちに震災を心に刻んでおいてもらいたいという思いからかもしれません。復興に向けての歩み出しを感じる一方で、将来の見えない不安を抱えながら生活をされている被災者は数多くいます。津波は人や家、財産を流していきました。さらに、被災者の声の中に「人間関係をも壊していった」と言うことを肝に銘じたいものです。私たちワーカーにできることを県に持ち帰り、組織として一緒に考えて行きたいと思えます。ありがとうございました。

## 現地感想文

### 3月5日（月）

朝起きたら、10センチ以上の雪！中本富美さんが石巻駅前ホテルから出勤！「雪道に強い石川県協会」からの支援は、ほんとうに心強い！加えて、ケース検討会で、煮詰まってる状況に、メンバー外からの感想を求められた中本さんから「こうして大変な思いをしているいろんな職種の方が、話し合える場や関係がここにあることがとても大切」と。参加者みんなが納得、今日の検討会の大きな成果と胸に落ちた瞬間でした。酪酊婦人へのケア、こちらも、SWの底力。やっぱり、スゴイ仲間たちです。

### 3月6日（火）

春の雪は、あっという間に溶けて、気温も上昇。仮設での集会も賑やかでした。参加MSW全員が、それぞれが心に沁みる話に出会い夜の会話も熱くなりました。

### 3月7日（水）

仮設での茶話会に、新しく来た方たちはたくさんのお土産をもらって帰られています。今日も、仮設住民や支援員さんに育てられた私たちワーカーです。生きること、助け合うこと、闘うこと、受け止めることを、様々な場面や心の動きをあらわすこの土地の優しい言葉が、教えてくれます。

### 3月8日（木）

仮設サロン会議では、愛知県の同朋大学の学生さんが訪問アセスメント班として参加をしていました。「被災地・支援・問題点を知り、多くの関係者の人達が心を一つに頑張っていることを知りました」との感想。事務局スタッフの方がそれを受けて「地元の人から『恩返しするまで死ねねえ』と言われた」と声を詰まらせる場面があり、現地採用スタッフの方からは目に光るものがありました。自分達に課せられた仕事の重さを感じながら、前にすすみたいと感じた時間でした。

### 3月9日（金）

茶話会・電話の中で、普段通りドラマを見て過ごす人、3月11日にいかに大変だったかを話す人、一年を振り返り家族の荷物の整理をしようとしている人、いろんな方のそれぞれの1年のすごし方を感じています。食事を囲み笑いながらも、私たち参加者の中で感じたこと、ここに来た気持ちがふと出てくる夜を過ごしました。

### 3月10日（土）

寒い1日、1年前もこんな日だったのかも…とつい思ってしまいます。「孤立」にあらがえるならと、めげずに「各戸配布」にも1団地のみですが開始しました。「鎮魂の夕べ」は寒くて途中で挫折しました！ホットウイスキーやコーヒー、焼きそばのサービスもありましたが列に加わるのはちょっと…。ピンクと黄色の風船はもらえたので…駐車場で空に放ちました。

日和山を越えて、門脇（たくさん犠牲者が出たあたり）の空に消えていきました。結構元気なゴスペルや、ビデオレターで賑やかな集会でした。

### 3月11日（日）

今日は、早朝から動き出しました。

女川の高い位置まで来た津波が、街をなぎ倒した様子を見に向かった組は寒い中でしたが、今日の日の出も浴びてきました。

午前中訪問や電話、午後からは、二手に分かれてそれぞれの追悼集会に。2時46分は、石巻のすべての人々が、黙祷を捧げました。

追悼電報では「日本医療福祉協会」が紹介されました。

今日の夕日は、輝いて海辺の焼け跡に集まってる人々を照らしていました。

明日から、また新しい局面の支援が始まるでしょう。